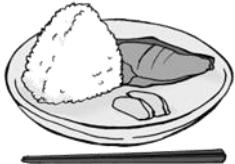


給食で食を考えましょう !!

1月24日～30日は「全国学校給食週間」です。

◆学校給食の歴史



学校給食は、明治22年山形県鶴岡町の私立忠愛小学校で、お弁当を持参できない子どもたちのために、おにぎり・塩鮭・つけものなどを提供したことが始まりとされています。その後、全国に広がりましたが、戦争のために中断されました。

戦後、食糧難による児童の栄養状態の悪化を背景に学校給食再開を求める国民の声が高まるようになり、昭和21年6月に米国のLARA(ララ) (Licensed Agencies for Relief in Asia : アジア救済公認団体) から給食用物資の寄贈きそうを受けて、昭和22年1月に学校給食が再開されました。

同年12月24日に東京都内の小学校でLARA(ララ)からの給食用物資の贈呈式そうていしきが行われ「学校給食感謝の日」と定められ、その後、冬季休業と重ならない1月24日から1月30日までの1週間を「全国学校給食週間」としました。

◆学校給食の意義・役割について考えてみよう

学校給食は、成長期にある中学生に必要な1日の食事摂取基準の3分の1を満たすことができるよう考えられており、主食、主菜、副菜、汁物などに牛乳を組み合わせて提供されています。

適切な栄養量の摂取はもちろん、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるといった重要な役割を果たしています。また、学校給食には「伝統的な食文化」や「食生活が様々な人々の活動に支えられていることを理解する」などいくつかの目標があげられています。



◆感謝の気持ちをこめてあいさつをしよう

「いただきます」

私たちは、自然の恵みを得て生きています。

自分の命のために動植物の命をいただくことへの感謝の気持ちを「いただきます」に表しています。



「ごちそうさま」

ごちそうさまは、「ご馳走さま」と書き、「馳」と「走」には「はしる」という意味があります。料理を作る人がいろいろな所を駆け回ったおかげで、おいしい料理を食べることができたという、感謝の気持ちがこめられています。

感謝の気持ちをこめて、残さずにいただきましょう！